

ミライをつなぐ。

RECRUITING BOOK

 ASIA AIR SURVEY CO.,LTD.

空間情報でミライを

実は、皆さんとつながっています。

ふだん、何気なく使う
道路、鉄道、電気、水道。
社会インフラは造るにも守るにも測ることが必要です。

忘れたころにやってくる
地震、大雨、火山災害。
防災・減災には被害予測や減災施設など事前の備えが重要です。

身近に感じる気候変動
森林や生態系の変化に対し、保全や保護のため調査・計画を行います。
エネルギーの分野でも再生可能エネルギーの活用など
持続可能なものへの転換が求められています。

その多くに、真面目で個性的な
アジア航測の社員が関わっています。

人と技術で「社会のために存続する」
空間情報コンサルタントとして、
特色ある人と技術で社会に貢献しています。

経営理念

1 事業は人が創る新しい道である

変革を恐れず、
常に勇気と独創心を持って前進しよう

2 事業は永遠の道である

5年先のビジョンを共有し、
3年先の目標に向かって今年の計画を
着実に達成しよう

3 事業は人格の集大成である

人格は製品の品質に現れる。
より高き自己の完成に努め
社風を磨きあげよう

4 事業は技術に始まり営業力で開花する

新技術の開発力と、
営業力の両輪こそが我が社の企業力

つなぐ



事業は社会のために存続する

地球の未来を創造する
我が社の公共性を自覚しよう

事業はより高い利益創造で発展する

誇り高き企業理念の共有と、
結束したアジア航測グループの総合力で、
より高い企業利益を創造しよう

採用責任者メッセージ



個性を大切に、 伸び伸びと。

1954年、アジア航測は戦後の国土再建に必要な精密地図をつくることに使命感を帯びた32名が設立しました。

このパンフレットでは、先輩方から受け継いだ当社の想い、あゆみ、現代の会社の姿、そして将来に向けて会社が求める人財などを中心にご紹介しています。ぜひご興味を持っていただけましたら、ホームページもあわせてご覧ください。

経営理念の1つ目に「事業は人が創る新しい道である」とあり、社員の人物像を表す言葉として最もふさわしく、私も大好きなフレーズです。

お客様から「技術のアジア」と技術力の高さをお褒めいただくことが多く、この評価は社員のプライドでもあります。と同時に「アジアさんってホント真面目で良い人が多いんだよね」とも言われます。

これも誇らしいことですが、ひょっとしたらもう少し仕事の見せ方も工夫したほうが良いかもしれないな、と心配することもあります。

普段は、真面目で優しいアジア航測の社員たちですが、個人的で面白いキャリアを持った人財が沢山います。これは、当社の自由な風土と豊富な経験、自立したキャリア形成から培われた社風なんだと思います。

置かれた環境を楽しみ、どんなことでも吸収し、そこでやりがいと楽しさを見出せる方を求めています。

アジア航測は、個性豊かな皆さんをお待ちしています。



人事部長 岩間 基己

アジア航測のあゆみ

1954年の設立以来70年。アジア航測は空間情報コンサルタントとして、長年にわたり国土保全や社会インフラマネジメントの事業を通じて、安全・安心で持続可能な社会の実現に貢献し続けてきました。これからも、設立当初から培ってきた空から測る技術を研鑽しながら、最先端技術とアイデアで、「空間情報技術で社会をつなぎ、地球の未来を創造する」企業であり続けます。



設立

戦後復興の基盤となる地図づくりから船出。
翌年には自社機の運航開始や研究部門を設立。



防災・デジタル黎明期

環境・防災分野をはじめとするコンサルタント事業のさらなる発展。
阪神淡路大震災を契機に、コンピュータで地図と様々な情報を重ね合わせ、解析するGIS（地理情報システム）アプリケーション「ALANDIS」を開発。

1954

1960

1980



「技術のアジア」の確立

解析空中三角測量法の実用化に世界初成功。地図の大量生産が可能に。
高度成長の中、環境問題が発生し環境調査分野を強化。
ガーナやインドネシアなど、海外展開も開始。

COLUMN 災害はいつの時代もやってくる

災害対応は当社の使命の一つです。1959年9月、甚大な高潮浸水被害をもたらした伊勢湾台風では初めて緊急撮影を実施しました。広範囲が被害を受け、被害状況の全貌がわからない中、空から撮影した写真は浸水範囲を明らかにし、関係機関へ提供されました。その後、風水害や地震、火山など大規模災害では救助や

復旧・復興の手助けのため緊急撮影を実施し続けています。

1995年1月の阪神淡路大震災、2000年に相次いだ有珠山・三宅島の噴火、2011年3月の東日本大震災など、発災直後に撮影を行い、被害状況の把握や地図・写真情報を関係機関に提供するとともに、復旧・復興に寄与しています。

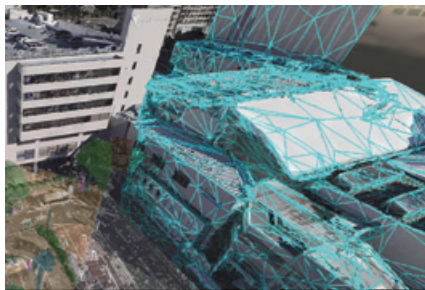




COLUMN 環境負荷に配慮した航空機の運航

当社のCO₂排出量の約半分が航空機運用によるものです。そこで、従来の航空燃料ではなく、バイオジェット燃料（SAF）を航空測量業界で初めて導入しました。

またその燃料を使い森林を計測し森林経営の適正化を支援することで、さらなるCO₂排出削減を図っています。



空間情報技術で社会をつなぎ、地球の未来を創造する

2024年2月で設立70年。

近年、地球温暖化をはじめとする環境変動への対応として、再生可能エネルギーの普及・調査に取り組んできました。これまで培ってきた技術を基に、人々の暮らしにつながる測る技術の革新を続けていきます。

2033年までの長期目標では、人財・技術・設備へ積極投資し、主要事業の成長と新規分野の確立を目指し、過去・現在・未来、リアルとバーチャルをつなぎ、豊かで、楽しく、安全に、住みよい地球の未来を創ります。

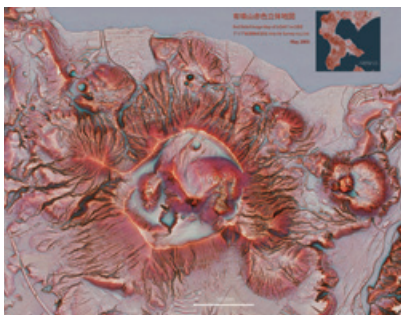
» 2000

» 2024

大災害の頻発、航空レーザ計測の発展

2000年代に入ると、有珠山・三宅島などの噴火、中越地震や東日本大震災、西日本豪雨など大災害が頻発し、防災・減災事業への社会的要請が高まり、技術で貢献を果たしてきました。

このころ、光の反射を利用した航空レーザ計測の技術が発展し、航空測量の精度が大きく向上しました。レーザ計測は三次元データが得られるため、様々な表現方法も開発され、当社では地表の凸凹がわかりやすい特許技術「赤色立体地図」を発明しました。



アジア航測での学び



アジア航測では、昇格時などに行う階層別研修と専門知識を深める職種別研修、技術士などの資格取得支援を積極的に行っています。特に新入社員研修は2か月にわたり、ビジネスマナーから専門知識、技術者倫理にわたるまで研修を行います。また運航所を訪ね、航空機や航空カメラ、レーザ計測機などの実物を見学します。

また社員の多くが学会や業界団体などに所属し、研究・自己研鑽を継続したり、社外活動を行っています。

COLUMN 最新知識に加え、先輩社員の技術や経験からも学べる「空間情報大学」

「空間情報大学」は、2021年にアジア航測グループの役職員がいつでも誰でも学べるオンラインコンテンツとして、開校しました。

当初は測量に関する技術的な知識、測量士取得支援、最新の技術動向や歴史などを扱っていましたが、現在では「教養学部」も設け、社員の経験伝承や業務の基本動作なども学べます。

2023年10月時点で300を超える講座が用意され、技術者だけでなく、営業・管理部門も受講しています。



入社後のキャリア



アジア航測で長く働いていただくため、自らのキャリアを想像しやすいようキャリアパスを定めています。これは会社から社員へ公表し、中長期的な将来を思い描き、その実現のためにどのような能力、経験、資格が必要かを具体的に示したものです。これをもとに、社員自身が各自のキャリア像、マイキャリアパスを作ります。

新卒入社の場合、3～5年後には中堅社員としての立場に変わります。そのために必要な業務知識、コミュニケーション能力、実務上経験してほしい業務や保有資格などを示しています。

入社後のマイキャリア 2021年入社 西日本総務経理室 若江 瑠璃子



2021年に新卒入社し、総務経理業務全般を行ってきました。管理部門はお客様や成果品に直接かかわるのではなく、技術部門・営業部門を後方から支援することが目的の部署です。しかし裏方と軽視できるものではなく、すべてが企業運営に必要不可欠な業務です。

業務領域は非常に広く多岐にわたっているため、日々学ぶことも多いですが、様々な経験を積む機会に恵まれています。資格面では、社員の衛生教育や安全衛生委員会の運営のため「衛生管理者」、生産性向上のため「ITパスポート」を取得しました。

日々の努力で理想の自分を作り上げていくことが大切だと信じて、業務に取り組んでいます。

COLUMN 一人ひとりに合わせた「働きやすさ」を追求した風土・制度づくり

長く働き続けると、様々なライフイベントが待ち受けています。結婚、出産、育児だけでなく、親の介護、自身の健康など、年齢と環境に応じて働き方や価値観も変化していきます。アジア航測では、自分らしい働き方を選択し、ライフとワークを両立させるための人事制度をご用意しています。

長く働き続けるための制度

育児介護休業規定、フレックス制度、テレワーク制度、定年後再雇用制度、シニア嘱託制度 等

働く場所と時間を選べる制度

ベンチャー制度、FA制度、社内公募制度、テレワーク制度、フレックスタイム制度、時間単位有給休暇制度 等

女性活躍の数値目標



新卒採用における女性の比率30%



女性管理職比率10%へ

数字で知るアジア航測

設立

1954年

1954年2月に設立され、70年間航空測量を基盤に技術を磨いてきました。

自社機保有数

7機

航空測量に欠かせない航空機を7機保有し運航しています。そのうち1機はエンジンが2基ある機種で、業界でも珍しいものです。

社員滞空時間

2,530時間

空から測る仕事をする社員は飛行機を操縦する操縦士、測量機材を操作する撮影士がいます。ある1年間、社員が上空で仕事していた時間＝滞空時間は2,530時間にも及びます。

事業所数

56か所

47都道府県に事務所等を配置し、地域密着で業務を行っています。数人で運営している事務所から数百人勤務している拠点まで様々です。

運航所数

2か所

飛行機を整備・運用する拠点として、東京の調布飛行場と大阪の八尾空港を運航所としています。この運航所から、全国の計測場所へ飛んでいきます。

男女比

4:1

社員は現在、男性4:女性1の割合です。近年は新卒で入社する社員の3~4割が女性です。産休・育休制度の浸透もあり、長く勤める女性が増えたことから女性管理職も増えてきています。

面接回数

2回

新卒での面接はグループ面接1回、役員面接1回の合計2回です。少ない面接機会ですが、ご自身の経験や想いを伝えてください。

仕事の満足度

85%

毎年仕事への満足度などの調査を行っています。の中で、「仕事の内容・役割に大変満足している/満足している」と回答した社員は全体の85%に上りました。

独身寮家賃

※4年制大学を卒業後、入社の場合

1,400円/月*

住宅補助制度が充実しており、新入社員が自宅から通うことが難しい場合、借上独身寮を利用できます。入社年次より5年間、自己負担額は1,200円~1,700円/月で入居できます。

賞与

※2022年実績

8か月分*

賞与は会社の業績などによって労働組合との交渉で決まるもので、毎年変動します。2022年は夏・冬合わせて月給8か月分が支給されています。



みんなの声で知る
アジア航測
アジア航測で働く
みんなのストーリーを
タレントブックで公開中。

サイトはこちら!



アジア航測株式会社

新百合本社

〒215-0004 神奈川県川崎市麻生区万福寺1-2-2 新百合トウェンティワン3F
TEL : 044-969-7250 Mail : tk.jinij@ajiko.co.jp



アジア航測 公式サイト
<https://www.ajiko.co.jp/>

アジア航測



アジア航測
公式Instagram

AJIKO_JP



アジア航測 リクルートサイト
<https://www.ajiko.co.jp/recruit/>

アジア航測 リクルート



アジア航測
公式YouTube

アジア航測 YouTube

認証・認定



次世代認定マーク
(愛称:くるみんマーク)



女性活躍推進法に基づく
「えるほし」認定二段階目



レジリエンス認証
事業継続および社会貢献



ブルーバードマーク
登録番号 第10840413号

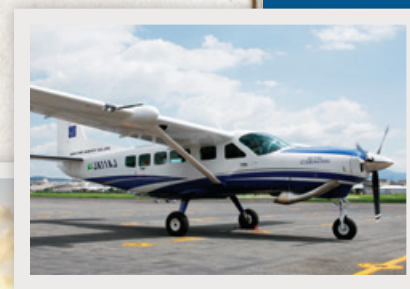


環境大臣認定
エコ・ファースト企業



2023 健康経営優良法人
健康経営優良法人

アジア航測は
なぜ自社で7機もの
航空機を運用するのか？



どこよりも早く、
正確な空間情報で生命をつなぎたい

アジア航測の強み。それはどこよりも早く航空機を飛ばし撮影すること。どこよりも早く撮影した状況を伝えること。どこよりも正確に空間情報で生命をつなぐこと。

航空機から地上を俯瞰すると、地球上のありとあらゆる変化が見て取れます。人間だけでなく動物、植物、地形、水質、大気など空間情報から地球の声が聞こえてきます。

現在、整備士、操縦士、撮影士のほか、社員全員で安全意識をもって業務にあたっています。また大規模災害での緊急撮影時も迅速な対応がとれるよう、体制を整えています。

社会をつなぎ地球の未来を創造する。それがわたしたちのビジョンです。